



十三崖チョウゲンボウ応援団ニュースレター

チョウゲンボウ新聞



No.37 2020年(令和2年)4月17日(金)発行

チョウゲンボウの巣穴に ハヤブサが営巣



横に細長い巣穴内のチョウゲンボウのメス(左:2016年5月)とハヤブサのメス(右:2020年3月) 撮影:小林進

十三崖の上流側にある横に細長い巣穴に、2020(令和2)年3月からハヤブサが営巣を開始しました。この巣穴は、2002(平成14)年から2019(令和元)年までの18年間のうち、チョウゲンボウが16回繁殖に成功した、十三崖で最も成績の良い巣穴です。

ハヤブサは昨年もこの巣穴を確認しに飛来しており、近いうちでの営巣は予測されましたが、今年この巣穴を選択しました。その原因は、下流側にある昨年までハヤブサが利用していた巣穴に、崖の上部から生長した植物が覆いかぶさったためだと考えられます。ハヤブサは、2月中は去年までの巣穴の近くでも交尾などを行っていましたが、3月になった頃から横に細長い巣穴を本格的に利用し始めました。そして、4月の中旬にヒナが孵化し、つがいの動きが活発

＜目次＞	チョウゲンボウの巣穴にハヤブサが営巣	1P
	チョウゲンボウ土びな絵付け講習会 開催	2P
	ジャパンバードフェスティバル2019 出展	3P
	令和元年度 勉強会 開催	3P
	応援団の活動	3P

〔編集・発行〕十三崖チョウゲンボウ応援団 事務局

〒383-8614 長野県中野市三好町一丁目3番19号 中野市教育委員会事務局 生涯学習課文化財係内

になりました。

チョウゲンボウは、横に細長い巣穴よりさらに上流側にある、2010(平成22)年まで利用されていた巣穴に、3月からつがいで出入りしていましたが、4月の中旬から姿を見かけなくなりました。ハヤブサが崖の上流側の横に細長い巣穴に移動したため、下流側の昨年10ヶ所整備した人工巣穴にチョウゲンボウが飛来していないかと観察を継続していますが、現段階では確認できていません。

横に細長い巣穴は、ハヤブサには少し手狭に見えます。チョウゲンボウでは、巣穴内の面積が小さいとヒナ数が少なくなるという研究報告もあります。今後の十三崖でのチョウゲンボウの飛来状況とハヤブサの繁殖状況に注目したいと思います。



植物が覆った昨年までのハヤブサの巣穴 撮影:小林進



横に細長い巣穴の上流側の巣穴に出入りしていたオス

●チョウゲンボウ土びな絵付け講習会 開催



絵付けを行う会員

2019(令和元)年10月27日(日)に、チョウゲンボウ土びな絵付け講習会を、中野市内にある「創作土人形工房まちなか交流の家」で開催しました。

講習会では、まちなか交流の家の職員の丁寧な指導で、参加した会員が満足する出来となりました。会員は図鑑など資料を見ながら絵付けを行い、チョウゲンボウの形態を詳しく知る良い機会となりました。チョウゲンボウ土びな1

つの絵付け時間は、完成まで2時間弱でした。絵付けの実施は、今後の事業において十分に可能で、また効果的であることが確認できました。参加者7名でした。

● ジャパンバードフェスティバル2019 出展



応援団の出展ブース

2019(令和元)年11月2日(土)から3日(日)の2日間、千葉県我孫子市オオバン広場でジャパンバードフェスティバル2019が開催されました。応援団は今回もブースを出展し、十三崖のチョウゲンボウと応援団の解説パネルを展示し、リンゴの販売を行いました。

また今年は新たな試みとして、缶バッジとチョウゲンボウ土びなを販売しました。缶バッジはチョウゲンボウの絵や写真のもので、土びなは絵付けしてあるものと、絵付けしていない状態のものを販売しましたが、予想より人気がありほぼ完売しました。会場での絵付けもできるように準備もしていましたが、時間がかかるため、会場での実施は難しいことがわかりました。

● 令和元年度 勉強会 開催

2019(令和元)年12月14日(土)に、令和元年度の勉強会を、中野市立博物館講演会と共催で、博物館休憩室で開催しました。講演会では、まず事務局から令和元年度のチョウゲンボウの営巣状況、保全整備工事、調査の解析結果を紹介しました。その後講演が行われ、講師は弘前大学大学院農学生命科学研究科教授の黒尾正樹さんで、講演タイトルは「チョウゲンボウをはじめとする鳥類の遺伝的多様性」でした。



講演を行う黒尾教授

講演では、鳥類の遺伝的多様性と絶滅リスクの関係の解説と、アホウドリ及びチョウゲンボウ弘前個体群のハプロタイプ※の分析結果が紹介されました。講演の中で、アホウドリは個体数が減少したもののハプロタイプが多く、絶滅を回避できたことと、チョウゲンボウの弘前個体群はアホウドリよりハプロタイプが少なく危険な状態であり、しかも近親交配も起きているため個体群は絶滅に向かう可能性があることが紹介されました。中野市を含む北信地方のチョウゲンボウの個体群も個体数が減少してきており、その要因として環境要因とともに遺伝的多様性の低下も懸念されます。十三崖に多くのチョウゲンボウが営巣するためには、現在行っている環境保全とともに遺伝的多様性の状態を確認し、危険な状態であるのなら、その多様性を維持するための方策も必要であると考えられました。参加者は28名でした。※生物がもっている単一の染色体上の遺伝的な構成(具体的にはDNA配列)

応援団の活動

10月20日	第2回 滝木伐採作業	台風19号による被害のため中止
10月27日	チョウゲンボウ土びな絵付け講習会	開催
11月2日～3日	ジャパンバードフェスティバル2019	出展
12月14日	令和元年度 勉強会	開催

会員数 4月17日現在 231名

令和元年度 十三崖チョウゲンボウ応援団 活動報告

十三崖チョウゲンボウ探鳥会 開催

2019(令和元)年5月25日(土)に、天然記念物「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」において、令和元年度十三崖チョウゲンボウ探鳥会を開催しました。探鳥会では、営巣している1つがいのチョウゲンボウを観察しました。ちょうど巣立ちの時期で、ヒナは3羽確認され、そのうちの2羽は巣立っていました。



探鳥会

灌木伐採作業 実施

2019(令和元)年7月13日(土)午前7時から、第1回灌木伐採作業を実施しました。作業では、天然記念物指定範囲東端から上流側の草本類を除去し、外来樹木を伐採しました。10月20日(日)に予定していた第2回灌木伐採作業は、台風19号による被害のため中止となりました。



第1回灌木伐採作業の集合写真

チョウゲンボウ土びな絵付け講習会 開催

2019(令和元)年10月27日(日)に、チョウゲンボウ土びな絵付け講習会を、中野市内にある創作土人形工房まちなか交流の家で開催しました。講習会では、まちなか交流の家の職員の丁寧な指導で、参加した会員が満足する出来となりました。



絵付け完成後の集合写真

ジャパンバードフェスティバル2019 出展

2019(令和元)年11月2日(土)から3日(日)の2日間、千葉県我孫子市オオバン広場でジャパンバードフェスティバル2019が開催されました。応援団は今回もブースを出展し、十三崖のチョウゲンボウと応援団の解説パネルを展示し、リンゴ、缶バッジ、土びなの販売を行いました。



ブースで説明を行う事務局

令和元年度 勉強会 開催

2019(令和元)年12月14日(土)に、令和元年度の勉強会を、中野市立博物館休憩室で開催しました。講師は弘前大学大学院農学生命科学研究科教授の黒尾正樹さんで、講演タイトルは「チョウゲンボウをはじめとする鳥類の遺伝的多様性」でした。



塚田副会長からお礼の言葉を受ける黒尾教授